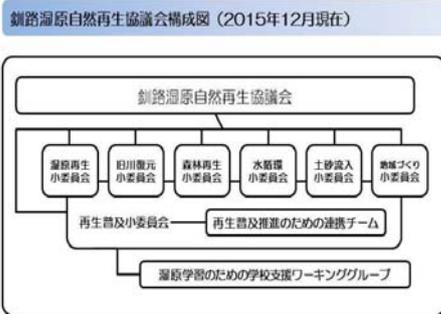




釧路湿原森林ふれあい推進センター

また、協議会には各小委員会に共通する課題として、自然再生の普及と環境教育・市民参加の促進に横断的に取り組む「再生普及小委員会」があり、さらに、このうち



釧路管内の行政機関や関係自治体、NPO、地域住民等が構成員となつて釧路湿原の自然再生を進めるため、釧路湿原自然再生協議会を設立し、分野ごとに7つの小委員会を設置して活動が進められています。

当センターは森林再生小委員会の構成員として、標茶町雷別で自然再生（森林再生）に取り組んでいます。

この活動は、釧路湿原の現状について知り、様々な観点から湿原保全・再生の取組について、グループごとにテーマを決めて調べているもので、

環境教育には関しては、地元の小中学校における釧路湿原および流域環境を題材とした学習の活性化を図る目的で「湿原学習のための学校支援ワーキンググループ」が設置されています。（構成図参照）

このワーキンググループは、地元小中学校が行う学習活動を支援するため、「釧路湿原や流域の環境に関する情報の提供」「釧路湿原や流域の環境を題材とした学習資料の提供」「専門家やフィールドと学校をつなげる（具体的な）等の支援を行っています。

今回、実際に学習の支援を実践している標茶町立標茶小学校5年生が総合的な学習の時間で取り組んだ「環境レンジャー出動！」に当センターも参加し協力しました。

また、森林を身近に感じてもらうため、地元標茶町雷別の森林を例にして、雷別の森林は釧路湿

そこで、地図と衛星写真を使い、釧路湿原周辺の川と森林の位置を確認して、釧路湿原の水が広大な地域から集まっていること。川の上流に森林があることを確認してもらい、森林の持つ機能、降った雨水の行方等の説明を行いました。



標茶町立標茶小学校

自分たちにできることは何かないか課題意識を持ちながら進めているそうです。

当センターが担当したのは、「森林の再生」グループで、取りまとめている内容を聞いてみると、森林と湿原の水の関係に興味があるようです。

教育関係の皆様、お気軽にご相談ください。お待ちしております。

釧路地方には、身近な環境教育の場として釧路湿原があるため、森林が霞んでしまいますが、当センターでは、今回のように釧路湿原自然再生協議会と連携した環境教育の実施を含め、国有林をフィールドにした森林環境教育、森林教室等への支援、技術指導を行っています。



地図で森林の位置を説明

原から離れた場所ですが、森林に降った雨が森林の土壌をとおり、湧き出し川になり、枯れることなく、安定した水量で、釧路湿原に注いでいることを説明して、森林と水の関係の理解を深めてもらいました。